

情勢報告（平成29年1月分）

中央西農業振興センター高吾農業改良普及所

「日高村農業クラスタープラン」が策定されました



日高村の将来のために

1月5日、日高村で「日高村農業クラスタープラン策定会議」が開催され、同プランが承認されました。

同プランは、日高村の特産品となっているトマト生産を中心に、担い手の確保・育成や加工業の拡大、観光振興など様々な分野が連携して地域振興を図っていくものです。戸梶村長からは「同プランは単に雇用が増えるだけでなく、障害者や高齢者などすべての人がトマトに関わって生活できる場として提案した」との挨拶がありました。

J Aコスモスの出資型法人(株)コスモスアグリサポートの研修ハウスや拠点ハウスなどの建設を皮切りに、多くの施設が建設されます。

普及所では、このプロジェクトが目的を達成できるよう、支援していきます。

ニラ産地の維持・拡大に向けてーそぐりセンターの運営検討会を開催ー



効率的な運営に向けて活発に意見が交わされました

1月20日、「J Aそぐりセンター(仮称)」の運営に関する検討会が開催されました。生産者の関心が非常に高く、施設・露地栽培合わせて生産者17名が参加しました。

J A担当者から進捗状況の報告があった後、センターを効率的に運営するための受入れ体制、品質基準等を検討しました。センターでは、従来手作業で行っていた出荷調製作業が全て機械化されるため、機械ならではの注意点等について、個人で機械導入した生産者に確認しながら話し合いを進めました。

普及所では、この検討会で新たに加わった条件での経費の再試算など、来年度の稼働に向けて支援を続けて行きます。

「土佐の新高梨」を盛り上げていくために～黒岩梨出荷組合がせん定講習会開催～



模範せん定を熱心に観る生産者

1月6日、佐川町の黒岩梨出荷組合が、黒岩地区で新高梨のせん定講習会を開催しました。当日は生産者ら18名が参加し、大玉で良質な新高梨いわゆる「土佐の新高」を生産する技術を学び、教えあう場となりました。

前組合長の西村氏が講師となり、昨年多かった「焼け果」対策を考慮し、「この枝は日除け枝として置くようにしよう、この枝は花芽が充実していないので切ろう」「できるだけ新しい枝に更新し、日当たりを考えながら配置していく」といったアドバイスをしながら、せん定しました。

普及所ではせん定経験3年以下の生産者に技術指導を行うなど、栽培管理全般の指導を通じて「黒岩梨づくり」の振興を支援していきます。

仁淀川町の「てっぺんテラス」が6次産業化セミナーの成果を発表



セミナーの成果や今後の計画を発表

1月20日、県主催の6次産業化セミナー成果発表会が開催され、仁淀川町の「てっぺんテラス」が1年間セミナーを受講した成果を発表しました。

同グループは、仁淀川上流域で栽培された作物と土佐あかうしなど日常とのかい離を堪能できる予約制レストランの開業を、今年3月に予定しています。セミナーでは、山野草や土佐あかうしの料理の個性的な提供方法と原価計算などの経営手法を学びました。グループからは「セミナー受講前は不安でいっぱいでしたが、受講後は「よしやってやろう」と自信がみなぎった」との感想がありました。

普及所では、6次産業化に積極的に取り組み、地域で特徴のある何かを作りたい、という方を支援していきます。

高品質な山椒生産のために ～越知町山椒組合がせん定講習会を開催～



どの枝をせん定しますか？
生産者と意見交換

1月17日、越知町山椒組合は町内黒瀬地区で生産者16名が参加し、せん定講習会を開催しました。

越知町は県内有数の山椒産地で、これまで青果と乾燥果の兼用品種が中心に栽培されてきました。近年、青果専用品種が徐々に増加していることから、今年は青果専用品種を対象に、普及所職員が講師となり、せん定の基本的な考え方や日当たり・枝の更新等について説明し、生産者の意見も引き出しながら実際にせん定を行いました。組合員からは「自分ではなかなか切り込めないが、実際にせん定した樹をみて参考になった」との声がありました。

普及所では、技術情報の提供や講習会を行い、山椒の生産振興のため支援を継続していきます。

佐川町斗賀野地区の農地管理を考える ～斗賀野地区営農協議会～



斗賀野地区の将来について協議

1月13日、佐川町斗賀野地区の農地管理を話し合う地区営農協議会が開催されました。

斗賀野地区では以前から営農について地区全体で話し合い、課題を解決してきていますが、中山間直払い制度等の活動について「制度上、事務処理も大変で、先やりできる人がいなくなった」ことから継続が難しくなっているとの話がありました。

普及所からは、地区全体で取り組んでいくために「人材育成の大切さ」や「継続できる経営」について、少人数の協議会メンバーによるプロジェクト的な話し合いを提案し、体制づくりの支援をしていくことになりました。